

アスパラガス栽培の歴史と現状

1 原産と分布

アスパラガスの原種は、南ヨーロッパからソ連南部にかけて、海岸や河岸などに多く自生している。ポーランドや南ロシア方面の半砂漠的草原には、この植物でおおわれているところがある。

アメリカ大陸にはヨーロッパからの移住民によって伝えられた。現在ではカリフォルニア州の栽培面積は全米の約 2 分の 1 を占め、世界的大産地となっている。

2 わが国での栽培経過と現況

わが国では天明以前（1781）にオランダ人により長崎に伝わっていたと言われるが、この当時は食用としてよりも、むしろ観賞用として植えられていたにすぎない。

わが国で初めて本格的に栽培されたのは大正 12 年（1923）で、この年に北海道岩内町で 40ha の栽培が始められ、大正 14 年には東洋で最初の企業としての缶詰生産が開始された。

その後、北海道における作付面積は徐々に増加し、昭和 15 年には 2,000ha と推定されるまでに至った（荒又 1940）。戦後になり、寒冷地における有利な加工野菜としてアスパラガスは再び脚光をあび、北海道、東北、中部高冷地を中心に栽培が盛んになった。とくに北海道では缶詰輸出の好調と相まって作付面積が急増し、昭和 40 年には全国面積で 5,000ha に達し、43 年には全国で 7,000ha（北海道で 5,210ha）にまで伸び、ひとつのピークを示すに至った。収穫量も順調に伸び 43 年には全国で 16,000t、北海道で 11,400t に達している。



写真 春の萌芽

3 栃木県のアスパラ生産の現状

全国のアスパラガス生産状況（左表：生産量と作付面積、右表は単収）

順位	都道府県	生産量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	4,210	1,390
2	長野	3,570	940
3	佐賀	2,790	127
4	長崎	2,200	134
5	熊本	2,130	110
6	福岡	1,840	78
7	山形	1,750	354
8	福島	1,610	389
9	秋田	1,610	410
10	栃木	1,510	87
11	新潟	951	247
12	香川	853	88
13	岩手	697	288
14	広島	653	125
15	愛媛	631	51
	全 国	30,400	5,420

順位	都道府県	単収 (t/10a)
1	福岡	2,370
2	佐賀	2,200
3	高知	1,990
4	熊本	1,940
5	神奈川	1,900
6	栃木	1,730
7	宮崎	1,660
8	長崎	1,640
9	愛知	1,460
10	愛媛	1,230

農林水産省の平成28年産野菜生産出荷統計によると、アスパラガス生産状況は表のとおりで、全国生産量は30,400t、作付面積は5,420haとなっている。

都道府県別では、北海道が作付面積1,390ha（全国の25%）、収穫4,210t（全国の14%）を占め、ともに第一位である。**本県は、生産量1,510tで全国第10位**となっている。

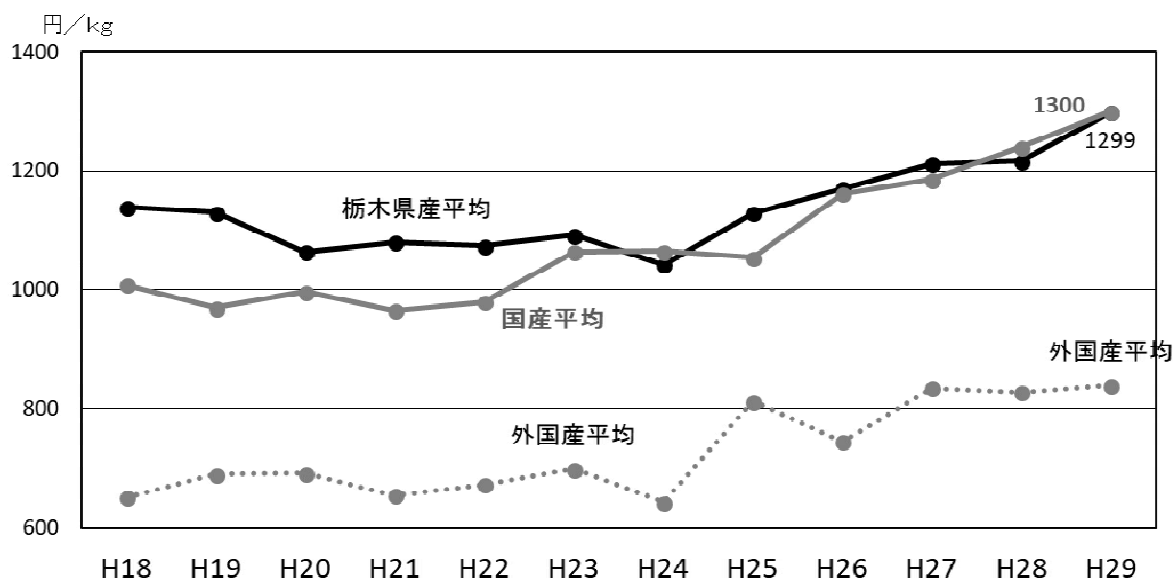
単収では、全国第1位が福岡で2,370kg/10a、第2位が佐賀県、第3位が高知県で、上位は西南暖地でハスウ栽培の割合が高い地域が占める。**本県の単収は1,730 kg/10aで全国第6位**と健闘している。

本県のアスパラガスのハウス栽培は、昭和63年に上三川町で始まり、その後、県内各地に徐々に波及していった。県中、宇都宮～上三川地区では、ウォーターカーテンを活用した集約的なアスパラガス栽培が実践されている。県北、那須地区では、平成5年に酪農家が栽培を開始して以来、豊富な地域資源でもある優良堆肥を活用しての栽培が急速に拡大し、県北の園芸品目の中心的な位置付けとなっている。県南、足利地区では、平成19年から畜産農家が中心となって栽培が開始され、温暖な気候により、収益性の高いアスパラガス経営を確立している。



写真 本県のアスパラガス栽培ハウス

4 栃木県産アスパラガスの市場での位置



図は東京中央卸売市場におけるアスパラガスの市場単価の推移であるが、国産アスパラガスの市場単価は全体的に上昇傾向である。中でも栃木県産アスパラガスは市場評価が高く、平成27年産の市場単価で1,212円/kgとなっている。

5 アスパラガス栽培の収益性と作業労働時間

アスパラ 40a 栽培規模での収益性 (H29 経営診断指標より)

[経営内容] 経営耕地面積 40 a (アスパラガス作付面積)
 農業従事者 2.5 名 (家族労働)

[粗収益] 854 万円 / 40 a

(栽培面積 40 a × 単収 2.0 t / 10 a × 単価 1,067 円 / kg)

[経営費] 404 万円 / 40 a (肥料、光熱費、雇用労賃、等)

[所得] 450 万円 / 40 a (粗収入－経営費)

県の経営診断指標では、栽培規模 40a の経営で、単収 2 t として粗収益が 854 万円 / 40a、年間の所得 450 万円と試算している。

より高い収益を得るには、単収の増加が必要で、2.5 t (所得約 600 万円)、単収 3.0 t (所得約 800 万円) を目指す必要がある。

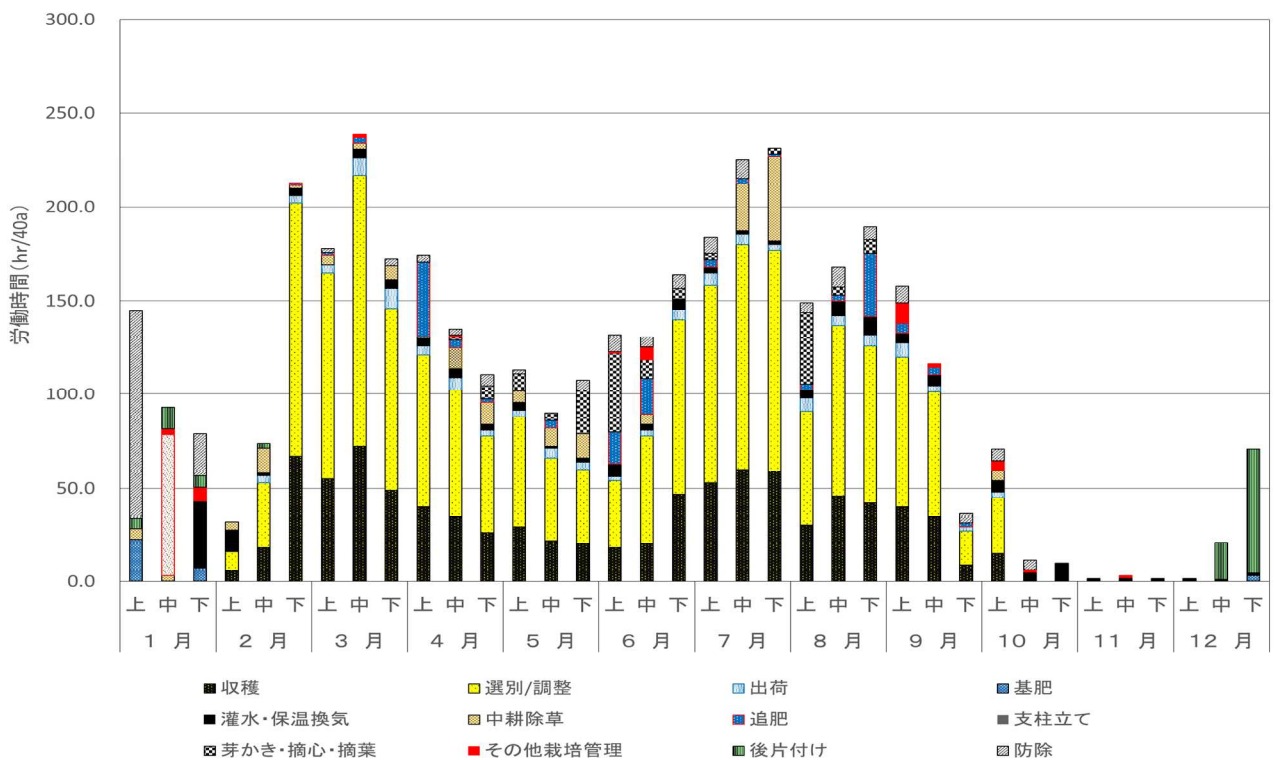


図 アスパラガス栽培の年間の作業労働時間（面積 40a 当たり）H29 経営診断指標より

上図は、ウォーターカーテンを利用した早期出荷作型で、40a の栽培規模のアスパラガス栽培を作業種類別に積み上げた旬別労働時間である。この作型では 2 月上旬から収穫となり、比較的、早い時期からの春芽出荷をしている。一方、一般的な無加温作型では、萌芽後の凍害を回避するため、地方ごとに保温開始時期を調節し、それに伴って春芽の収穫開始時期が異なってくる。

下図は各地域の代表的な作型である。水田等、組み合わせる栽培品目との労働競合を十分に考慮して理想的な年間作業体系を作り上げる必要がある。

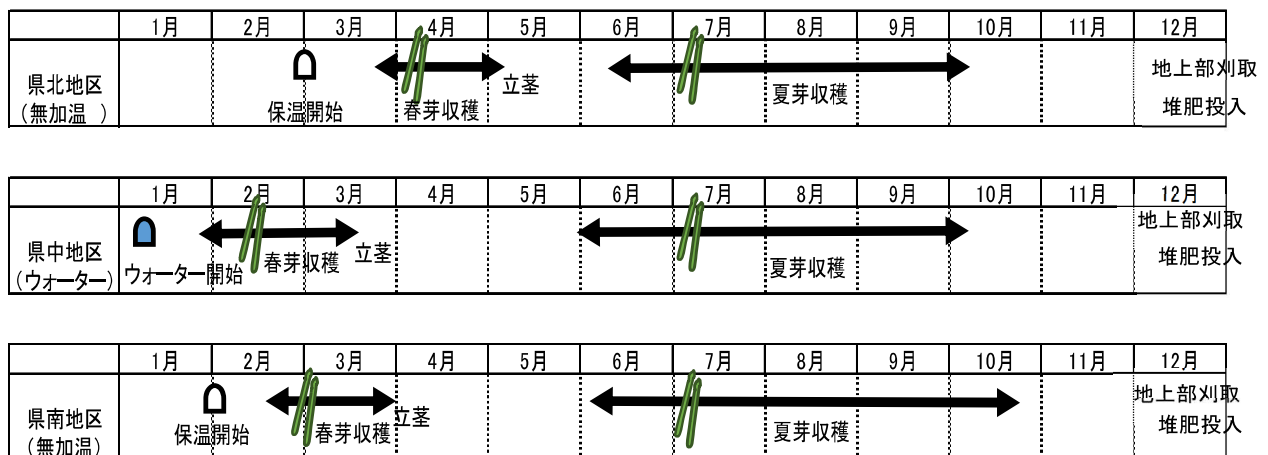


図 県内主要産地の作型、収穫時期